

教宣 せぶん

なにと比較するのか？

自主交渉打ち切り日の3月9日が迫ってきましたが、現在、会社からの動きはありません。やはり、会社には自主交渉打ち切り日までの労使交渉で、この問題を解決する気はないようです。3月9日の団交で会社がどういう話しをしてくるかわかりませんが、おそらくスト権が確立されているこのたたかいは、その場で会社に対し争議通告をする運びになると思われます。そうなれば、12日以降、私たちはスト権を行使したたたかいに入るわけですが、具体的なたたかい方やスケジュールについては、臨時大会で確認した通り、別途指示した通り、となります。私たちは、整斉と自分たちの戦術を行使していきます。

スト権を行使したたたかいですので、いままでの「休暇」を取得したうえでのたたかいは明らかに異なります。闘争中、賃金カットが生じているので、1分1秒たりとも、動きに無駄を生じさせたくありませんし、少しでも有効な取りくみにしたいと思います。また、抗議の声のトーンも自ずと高まるでしょうし、今まで以上に切迫感が伝わるでしょう。もちろん、仕事や業務、お客さんへの対応は一切行ないません。賃金カットされているわけですから、当然会社がその手当てはしなければならぬわけですから。

近視眼的に考えると「そこまでしなくても」と外部の人は考えるかもしれませんが、会社のスケジュール通り、思惑通りに事がすすめば、5月になれば私たちは領収証を取り上げられます。当然、継続申込書も渡されません。いずれ私たちの大切なお客さんの家には見ず知らずの代理店が訪問することになるでしょう。私たちのたたかいは、常にこの会社の思惑をベースに考えなければなりません。いままで漠然としたイメージだったものが、4月や5月が迫るなかで、より具体的にイメージができるようになります。その「ベース」と比較した時に、少々賃金カットされることが「どれだけのものか」と思います。顧客対応できないことが「どれだけのものか」と思います。極端に言えば、このたたかいに勝たなければ私たちは「すべて」を失うのです。そうならないために、スト権を行使してたたかうことは絶対に必要ですし、意味のあることです。事実そういった確認が臨時大会では行なわれました。

物事を判断する場合、なにと比較するかによってその判断は変わります。「紫」は「黄」と比較すれば濃いですし、「黒」と比較すれば淡いと言えます。比較する対象を誤ってしまうと、正しい判断はできなくなります。いま私たちのたたかいで比較しなければならない対象は「すべて」を失うかもしれないという「ベース」です。この「ベース」と比較すれば、私たちはこれから始まるたたかいを整斉と乗り切ることができると確信します。正念場になりますが、明るく元気にいきましょう。